

## 第3回中高一貫教育導入検討部会での発言まとめ

### (1) 中高一貫教育を導入するねらいが分かりにくい

#### ア チェンジ・メーカーについて

- ・ 支配的・統制的なリーダーではなく共感力や倫理観をもって切り拓いていく人が必要。
- ・ 日本や世界を「切り拓く」人材としたが良い。日本を引っ張るリーダーとした方が良い。
- ・ チェンジ・メーカーを分かりやすい言葉に置き換えることも必要。
- ・ 「答えのない課題に向き合わなければならない」という言葉を盛り込んだらどうか。
- ・ 多様な子を受け入れてもらいたい。エリート育成につながる形は反対。

#### イ 導入の意義について

- ・ 中高一貫校と地元小中学校が交流して、地元の小中学校全体が良くなると良い。
- ・ 地元の課題を若い力で解決していくような、地元役に役立つ中高一貫校になると良い。
- ・ 他県では、中高一貫の先進的な取組を広める、中高教員間の壁がなくなったなどの効果があった。中高一貫教育は、本当の中高連携を進める意義のあること。
- ・ 小中学校は、教員配置や受験の過熱化、地元中学校への影響を大変心配しているが、とにかく中高一貫校へ入った子が、胸を張って卒業できるようにしてもらいたい。
- ・ 様々な課題はあるが、私立の先進事例も取り入れながらやっていけば、愛知県独自の素晴らしい公教育ができるのではないか。
- ・ 特定の中学校が恩恵を受けるのではなく、地元の市町村に資源を投資すべき。

#### ウ 導入のねらいと教育内容の整合性について

- ・ 時間をかけて力を伸ばせる子とチェンジ・メーカーのイメージが結びつかない。
- ・ 4月6日記者発表時のねらいから、中高一貫教育を通して、チェンジ・メーカーを育成するとしたら分かりやすいのでは。

### (2) 受験の低年齢化や過熱化が心配

#### ア 受験の過熱化・低年齢化について

- ・ 受験の過熱化は心配。私立受験のために休む子がいる。(複数)
- ・ 生徒の心が心配であるので、よく検討してもらいたい。

#### イ 適性検査・調査書について

- ・ 調査書は受験者側の関心が高い。参考の仕方を明確にした方が良いのでは。調査書の扱いは重いものなので、しっかりと検討してもらいたい。
- ・ 調査書の作成は、小学校の教員の負担につながらないようにしてもらいたい。
- ・ 私学の検査と適性検査が大幅に異なると、受験者の負担が増えることが心配。
- ・ 適性検査の内容を、早く示してもらいたい。小中学校へ丁寧に説明してもらいたい。
- ・ 第一次導入候補校開校まで時間がないので、早く検討を進めないといけない。

#### ウ 先取りについて

- ・ 他県の中高一貫校では先取りをしているので、大学受験対策をねらいとして進度を早めないなら、その点を強く示さないと誤ったイメージで入学してしまうのでは。
- ・ 敢えて「先取りしない」と明言しなくても良いのでは。
  - ・ 高校によっては既に先取りをしている。無理なく柔軟に対応すれば良いのでは。
  - ・ 探究学習を進めるためにも、一定の先取りがあっても良いのでは。
  - ・ 大学入試では、高校での探究学習の取組などを評価する総合型選抜が始まっている。
  - ・ 一定の水準の子が先取りして生まれた時間を、探究に充てると良いのでは。
  - ・ 先取りをしないことでその学校の魅力がなくなるなら、本末転倒になるのでは。

### (3) 併設中学校への教員配置が心配

#### ア 教員不足について

- ・教員不足は厳しい。市町村から6人派遣すると示されていないことはありがたい。
- ・県立中学校の設置により、生徒数と教員数が減って少人数教育に影響が出ないよう、愛知県トータルで教員配置を考えてもらいたい。
- ・併設中学校の少人数教育により、地元の中学校に負担がかからないか心配。

#### イ 中高交流人事について

- ・中高人事交流を進めて質を高め合うと、地元の中学校にも良い影響があるのでは。
- ・現状としては、まず中学校で勤務したことのある高校教員に活躍してもらいたい。

#### ウ 配置する教員について

- ・中高一貫校では、研究機動的な役割もあると良いと思うので、そのためのコーディネーター的な人材も配置したらどうか。
- ・深い探究的な学びのためには、様々な教科で探究が実践されないといけないので、力量のある教員配置を考えてもらいたい。

### (4) その他

#### ア 教育内容について

- ・全て共通化するのではなく、各校の伝統や特色を生かした学びとしてもらいたい。
- ・一定の水準の子が集まることから、何のための基礎・基本の定着、少人数・習熟度別指導かが分からない。
- ・探究学習を深めるためには、中高一貫校に限らず全ての学校で少人数教育が必要。

#### イ 併設中学校の通学区域（学区）について

- ・明和で音楽の中高一貫を志望して入ったが、高校で普通科を希望した場合、高校から入った普通科の生徒（尾張学区）と内進生（県内全域）とで学区がずれるので心配。

### ウ 第二次以降の導入候補校について

- ・進学校だけでなく、公教育として教育全体に目を向けるべき。
- ・第一次導入候補校はチェンジ・メーカー育成、第二次以降は、経済的に苦しい子や理解に時間のかかる子、外国にルーツのある子など区分すると良いのでは。
- ・不登校や発達障害などの子が、高校卒業までを思い浮かべながら、長いスパンで学べるような中高一貫校とすると良いのでは。
- ・地域バランスを考えて、三河の方でも国際関係の導入校があっても良いのでは。
- ・最終的な導入校数のイメージが無いので、中学校現場が不安になっている。第二次候補校が固まってくると、より議論が深まってくるのではないか。

### エ 第一次導入候補校の内容に関する検討の進め方について

- ・愛知県総合教育センターで研究協議会を立ち上げ、継続的に研究したらどうか。
- ・事務局案もまとまってきているので、この案を基に、部会委員だけでなく総合教育センター所員も含めて、広く検討すると良いのでは。
- ・部会だけでなく、ワーキンググループなど、広く検討する場を設けることは賛成。
- ・具体的な指摘もあり、資料はかなり進んでいる。
- ・もう少しゆっくりと議論ができると良い。
- ・候補校の位置付けのままでは限られた検討となり、広く検討しにくい現状がある。